定理 4.4 (Rolle の定理) -

f が閉区間 [a,b] で連続,開区間 (a,b) で微分可能,f(a)=f(b) ならば,f'(c)=0 をみたす c が (a,b) 内に存在する.

※図形的には、x 軸に平行な接線が途中で引けるということ.

証明

f が [a,b] で連続、(a,b) で微分可能であり、f(a)=f(b) であるとする.

(i) f が定数のとき

f'(x) = 0 (a < x < b) であるから明らか.

(ii) f が定数でないとき

Weierstrass の最大値定理より,f は [a,b] で最大値と最小値をとるが,このうち少なくとも一方は内部 (a,b) でとる.どちらの場合でも同じであるから,f(c) (a < c < b) が最大値であるとすると

$$h>0, c+h\in[a,b]$$
 のとき、 $f(c+h)\leq f(c)$ より $\frac{f(c+h)-f(c)}{h}\leq 0$ ……①

$$h<0,\ c+h\in[a,b]$$
 のとき、 $f(c+h)\leq f(c)$ より $\dfrac{f(c+h)-f(c)}{h}\geq0$ ……②

である. f(x) は x = c で微分可能であるから

①
$$\sharp \mathfrak{h}$$
 $f'(c) = \lim_{h \to +0} \frac{f(c+h) - f(c)}{h} \le 0$

②
$$\sharp \mathfrak{h}$$
 $f'(c) = \lim_{h \to -0} \frac{f(c+h) - f(c)}{h} \ge 0$

よって, f'(c) = 0 であることがわかる.

以上 (i), (ii) より, 定理は示された. ■

定理 4.5 (平均値の定理, Mean Value Theorem) -

f が閉区間 [a,b] で連続,開区間 (a,b) で微分可能ならば, $\frac{f(b)-f(a)}{b-a}=f'(c)$ をみたす c が (a,b) 内に存在する.

※端点 (a,f(a)), (b,f(b)) を結ぶ直線の傾きは $\frac{f(b)-f(a)}{b-a}$ であるから、図形的には、端点を結ぶ直線に平行な接線が途中で引けるということ.

証明

f が [a,b] で連続、(a,b) で微分可能であるとする.

$$F(x) = f(x) - \left\{ \frac{f(b) - f(a)}{b - a} (x - a) + f(a) \right\} \quad (x \in [a, b])$$

とおくと,F は [a,b] で連続,(a,b) で微分可能である.また,F(a)=0,F(b)=0 より F(a)=F(b) となるから,Rolle の定理より,F'(c)=0 をみたす c が (a,b) 内に存在する.そして $F'(x)=f'(x)-\frac{f(b)-f(a)}{b-a}$ であるから,F'(c)=0 より $f'(c)=\frac{f(b)-f(a)}{b-a}$ となることがわかる.

定理 4.6 (Cauchy の平均値の定理) —

f,g が閉区間 [a,b] で連続、開区間 (a,b) で微分可能ならば

$$f'(c)\{g(b) - g(a)\} = (f(b) - f(a))g'(c) \cdots (*)$$

を満たすc が(a,b) 内に存在する. さらに、 $g'(x) \neq 0$ (a < x < b) であれば、(*) は

$$\frac{f(b) - f(a)}{q(b) - q(a)} = \frac{f'(c)}{q'(c)} \quad \cdots (**)$$

と書ける.

証明

f,g が閉区間 [a,b] で連続、開区間 (a,b) で微分可能であるとする.

$$F(x) = \{f(x) - f(a)\}\{g(b) - g(a)\} - \{f(b) - f(a)\}\{g(x) - g(a)\} \quad (x \in [a, b])$$

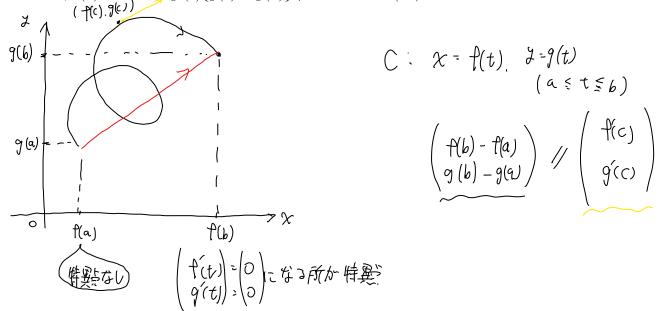
とおくと、F は [a,b] で連続、(a,b) で微分可能である。また、F(a)=0、F(b)=0 より F(a)=F(b) となるから、Rolle の定理より、F'(c)=0 をみたす c が (a,b) 内に存在する。そして

$$F'(x) = f'(x)\{g(b) - g(a)\} - \{f(b) - f(a)\}g'(x)$$

であるから、F'(c) = 0 より (*) が成り立つことが分かる. さらに、M-V-T より

$$\frac{g(b) - g(a)}{b - a} = g'(p)$$

を満たす p が (a,b) 内に存在するから, $g'(x) \neq 0$ (a < x < b) であれば $g(b) - g(a) \neq 0$ である.よって,(*) の両辺を $g'(c)\{g(b) - g(a)\} \neq 0$ で割れば (**) が得られる.



§2 L'Hospital の定理

定理 4.7 (L'Hospital の定理 (1)) —

f,g が (a,b) で微分可能で、 $g'(x) \neq 0$ (a < x < b) のとき

$$\lim_{x \to a+0} f(x) = \lim_{x \to a+0} g(x) = 0 \quad \cdots \quad 0, \quad \lim_{x \to a+0} \frac{f'(x)}{g'(x)} = A \quad \cdots \quad 0$$

であれば

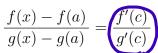
$$\lim_{x \to a+0} \frac{f(x)}{g(x)} = A$$

が成り立つ。

証明

f, g が (a, b) で微分可能, $g'(x) \neq 0$ (a < x < b) とし, ①, ② が成り立つとする.

① より、f(a) = g(a) = 0 ……③ と定めれば、f,g は [a,b) で連続になる.そこで,a < x < b となる x を任意にとると,f,g は [a,x] で連続,(a,x) で微分可能, $g'(t) \neq 0$ (a < t < x) であるから,Cauchy の M-V-T より



を満たす c が (a,x) 内に存在する. さらに、③ より

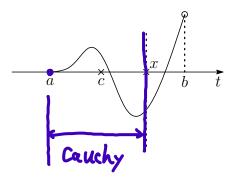
$$\frac{f(x) - f(a)}{g(x) - g(a)} = \frac{f(x)}{g(x)}$$

であるから、結局

$$\frac{f(x)}{g(x)} = \frac{f'(c)}{g'(c)}$$

となる. $x \to a + 0$ のとき $c \to a + 0$ であるから, ② より

$$\lim_{x \to a+0} \frac{f(x)}{g(x)} = \lim_{c \to a+0} \frac{f'(c)}{g'(c)} = A \qquad \blacksquare$$



定理 4.8 (L'Hospital の定理 (2))-

f,g が (a,∞) で微分可能で、 $g'(x) \neq 0$ (x>a) のとき

$$\lim_{x \to \infty} f(x) = \lim_{x \to \infty} g(x) = 0 \quad \dots \quad 0, \quad \lim_{x \to \infty} \frac{f'(x)}{g'(x)} = A \quad \dots \quad 0$$

であれば

$$\lim_{x \to \infty} \frac{f(x)}{g(x)} = A$$

が成り立つ.

証明

f,g が (a,∞) で微分可能, $g'(x) \neq 0$ (x>a) とし, ①,② が成り立つとする.

$$\frac{1}{x} > a$$
 を満たす $x \in \mathbb{R}$ に対して

$$F(x) = f\left(\frac{1}{x}\right), \quad G(x) = g\left(\frac{1}{x}\right)$$

とおくと、十分小さい b>0 に対して、F,G は (0,b) で微分可能であり

$$F'(x) = f'\left(\frac{1}{x}\right) \cdot \left(-\frac{1}{x^2}\right), \quad G'(x) = g'\left(\frac{1}{x}\right) \cdot \left(-\frac{1}{x^2}\right)$$

また, $G'(x) \neq 0 (0 < x < b)$ であり, ① より

$$\lim_{x \to +0} F(x) = \lim_{x \to +0} f\left(\frac{1}{x}\right) = \lim_{t \to \infty} f(t) = 0$$

$$\lim_{x \to +0} G(x) = \lim_{x \to +0} g\left(\frac{1}{x}\right) = \lim_{t \to \infty} g(t) = 0$$

さらに、②より

$$\lim_{x \to +0} \frac{F'(x)}{G'(x)} = \lim_{x \to +0} \frac{f'\left(\frac{1}{x}\right)}{g'\left(\frac{1}{x}\right)} = \lim_{t \to \infty} \frac{f'(t)}{g'(t)} = A$$

よって、L'Hospital の定理(1)より

$$\lim_{x \to \infty} \frac{f(x)}{g(x)} = \lim_{x \to \infty} \frac{F\left(\frac{1}{x}\right)}{G\left(\frac{1}{x}\right)} = \lim_{t \to +0} \frac{F(t)}{G(t)} = A$$

定理 4.9 (L'Hospital の定理 (3)) —

f, g が (a, b) で微分可能で、 $g'(x) \neq 0$ (a < x < b) のとき

$$\lim_{x \to a+0} f(x) = \lim_{x \to a+0} g(x) = \infty \quad \cdots \quad 0, \quad \lim_{x \to a+0} \frac{f'(x)}{g'(x)} = A \quad \cdots \quad 0$$

であれば

$$\lim_{x \to a+0} \frac{f(x)}{g(x)} = A$$

が成り立つ.

※証明は難しすぎるから省略する.

定理 4.10 (L'Hospital の定理 (4)) -

f,g が (a,∞) で微分可能で、 $g'(x) \neq 0$ (x>a) のとき

$$\lim_{x \to \infty} f(x) = \lim_{x \to \infty} g(x) = \infty \quad \dots \quad 0, \quad \lim_{x \to \infty} \frac{f'(x)}{g'(x)} = A \quad \dots \quad 0$$

であれば

$$\lim_{x \to \infty} \frac{f(x)}{g(x)} = A$$

が成り立つ.

※定理 4.8 と同様に F(x), G(x) を導入し、定理 4.9 を用いると証明できる.

※ L'Hospital の定理は、おおざっぱにいうと次のようになる.

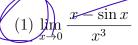
$$\frac{\lim_{x\to\square}f(x)}{\lim_{x\to\square}g(x)} \text{ が不定形, すなわち, } \frac{0}{0} \text{ や} \frac{(\pm)\infty}{(\pm)\infty} \text{ の形になるとき, } \lim_{x\to\square}\frac{f'(x)}{g'(x)} \text{ が存在すれば,}$$

$$\lim_{x\to\square}\frac{f(x)}{g(x)}=\lim_{x\to\square}\frac{f'(x)}{g'(x)} \text{ が成り立つ.}$$

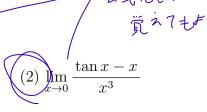
無条件で成り立つわけではない、

例 4.2

次の極限値を求めよ



(3)
$$\lim_{x\to 0} \frac{2x + \log(1-2x)}{e^{3x} - 1 - 3x}$$



$$(4) \lim_{x \to 0} (\cos 5x)^{\frac{1}{x^2}}$$

解答

(1) 分母・分子で極限をとると $\frac{0}{0}$ の不定形で

$$\lim_{x \to 0} \frac{(x - \sin x)'}{(x^3)'} = \lim_{x \to 0} \frac{1 - \cos x}{3x^2} = \lim_{x \to 0} \frac{1 - \cos x}{x^2} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{6}$$

$$\lim_{x \to 0} \frac{x - \sin x}{x^3} = \frac{1}{6}$$

※応用上は次のように書いてしまうことが多いかもしれない.

$$\lim_{x \to 0} \underbrace{\frac{x - \sin x}{x^3}}_{\frac{0}{\alpha} \text{ OTREW}} = \lim_{x \to 0} \frac{(x - \sin x)'}{(x^3)'} = \lim_{x \to 0} \frac{1 - \cos x}{3x^2} = \lim_{x \to 0} \frac{1 - \cos x}{x^2} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{6}$$

(2) 分母・分子で極限をとると $\frac{0}{0}$ の不定形で

$$\lim_{x \to 0} \frac{(\tan x - x)'}{(x^3)'} = \lim_{x \to 0} \frac{\frac{1}{\cos^2 x} - 1}{3x^2} = \lim_{x \to 0} \left(\frac{\tan x}{x}\right)^2 \cdot \frac{1}{3} = 1^2 \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{3}$$

$$\lim_{x \to 0} \frac{\tan x - x}{x^3} = \frac{1}{3}$$

※応用上は次のように書いてしまうことが多いかもしれない.

$$\lim_{x \to 0} \underbrace{\frac{\tan x - x}{x^3}}_{\frac{0}{0} \text{ OFEB}} = \lim_{x \to 0} \frac{(\tan x - x)'}{(x^3)'} = \lim_{x \to 0} \frac{\frac{1}{\cos^2 x} - 1}{3x^2} = \lim_{x \to 0} \left(\frac{\tan x}{x}\right)^2 \cdot \frac{1}{3} = 1^2 \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{3}$$

(3) 分母・分子で極限をとると $\frac{0}{0}$ の不定形で

$$\lim_{x \to 0} \frac{\{2x + \log(1 - 2x)\}'}{(e^{3x} - 1 - 3x)'} = \lim_{x \to 0} \frac{2 + \frac{-2}{1 - 2x}}{3e^{3x} - 3} = \lim_{x \to 0} \frac{\frac{-4x}{1 - 2x}}{3e^{3x} - 3} = \lim_{x \to 0} \frac{\frac{-4}{1 - 2x}}{\frac{e^{3x} - 1}{3x} \cdot 9}$$

$$= \frac{-4}{1 \cdot 9} = -\frac{4}{9}$$

$$\sharp \Rightarrow \tau \qquad \lim_{x \to 0} \frac{2x + \log(1 - 2x)}{e^{3x} - 1 - 3x} = -\frac{4}{9}$$

※応用上は次のように書いてしまうことが多いかもしれない.

※応用上は次のように書いてしまうことが多いかもしれない.
$$\lim_{x\to 0} \underbrace{\frac{2x+\log(1-2x)}{e^{3x}-1-3x}}_{o \text{ o } \text{ o$$

$$\lim_{x \to 0} \frac{\log(\cos 5x)}{x^2} = \lim_{x \to 0} \frac{\{\log(\cos 5x)\}'}{(x^2)'} = \lim_{x \to 0} \frac{\frac{-5\sin 5x}{\cos 5x}}{2x} = \lim_{x \to 0} \frac{-5\tan 5x}{2x}$$
$$= \lim_{x \to 0} \frac{\tan 5x}{5x} \cdot \frac{-25}{2} = 1 \cdot \frac{-25}{2} = -\frac{25}{2}$$

であるから

$$\lim_{x \to 0} (\cos 5x)^{\frac{1}{x^2}} = \lim_{x \to 0} e^{\frac{\log(\cos 5x)}{x^2}} = e^{-\frac{25}{2}}$$

※要するに、 \log をとってから極限値を求め、その極限値を e の肩にのせたものが答えになる ということ.

【問題】

次の極限値を求めよ.

(1)
$$\lim_{x\to 0} \frac{x - \arctan x}{x^3}$$

$$= \frac{1}{3}$$

$$t = arctan \times C(1 - 2\pi) \times f^5$$

$$(2) \lim_{x \to 0} \frac{1 - 6x - e^{-6x}}{7x - \log(1 + 7x)}$$

$$\Rightarrow \frac{3\zeta}{\zeta q}$$

(3)
$$\lim_{x \to 0} \frac{x^2 + 2\log(\cos x)}{x^4}$$

$$= -\frac{1}{6}$$

$$(4) \lim_{x \to 0} \frac{\sin x - xe^x + x^2}{\sin x - x \cos x}$$

$$= -2$$

$$(5) \lim_{x \to 0} (\cos 4x)^{\frac{1}{x \sin 3x}}$$

$$= \frac{\delta}{3}$$

(6)
$$\lim_{x \to 0} \frac{x\sqrt{1+x} + 1 - e^x}{x^3}$$
$$\div \qquad - \qquad \frac{7}{2\sqrt{2}}$$

※いきなり分母・分子を微分するのではなく

しん ためぬかになる $x\sqrt{1+x} = \{(1+x)-1\}(1+x)^{\frac{1}{2}} = (1+x)^{\frac{3}{2}} - (1+x)^{\frac{1}{2}} \quad \forall \quad \text{I} \neq \text{I}$

としてから微分すると計算がかなり簡単になる.